

物資が来たぞ!! 考えよう!!

阪神・淡路大震災から学ぶ

救援物資の送り方、
受け方、配り方

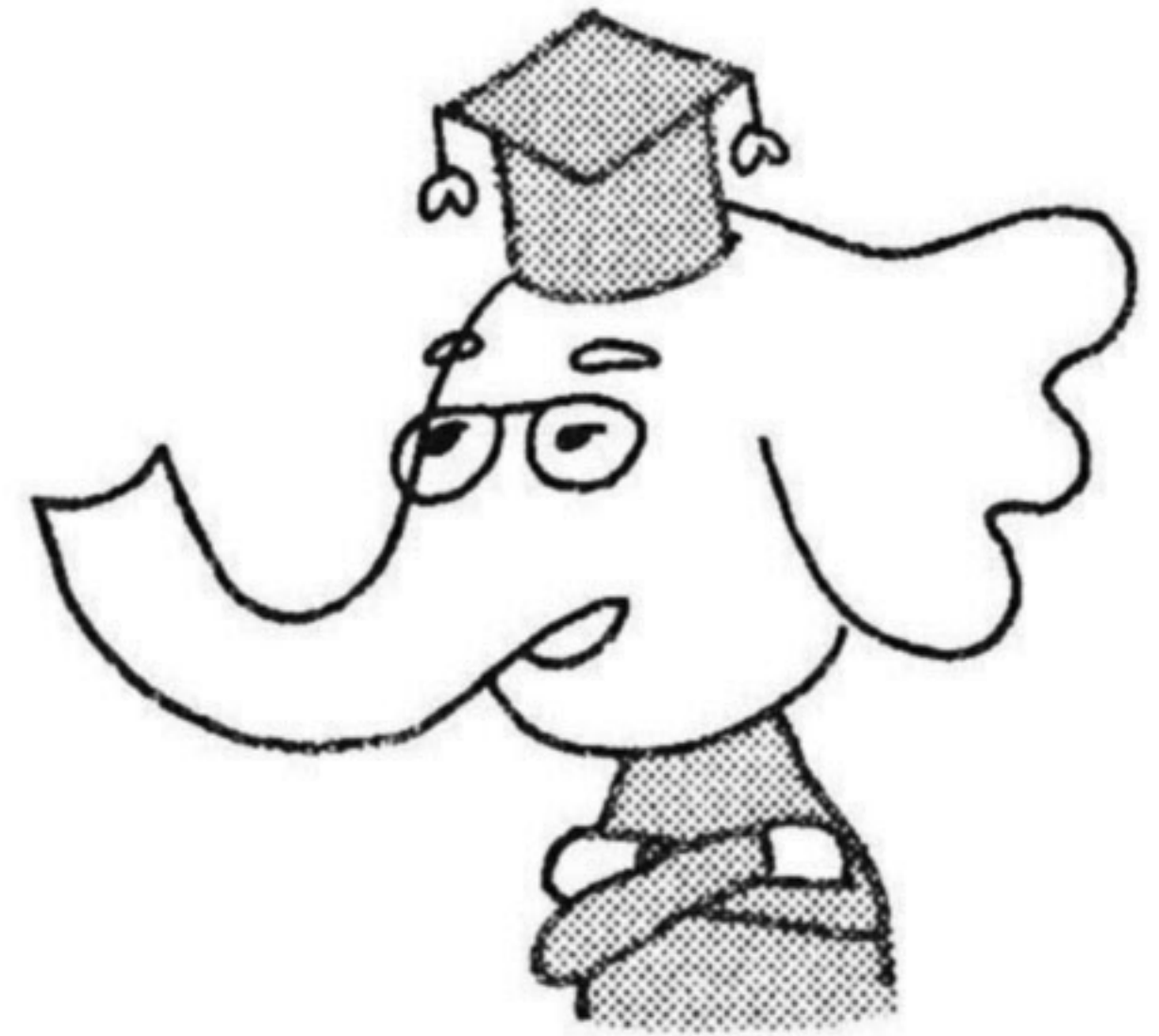
KOBE
の検証
シリーズ①

震災から学ぶボランティアネットの会「KOBE」の検証運営委員会
編

◆送る前に考えたいこと

1. 物資よりは、なるべくお金を送みましょう

確かに災害直後はお金よりも、何はともあれ着るものや毛布、おにぎりや水が必要だった。この提言は物資を送るという善意を全く否定するものではない。しかし過去の災害の多くは救援物資の対処に相当苦しんできた。お金がすべてではないが、お金なら本当に必要とするものに換えられるのだゾウ!!



◆アンケートより

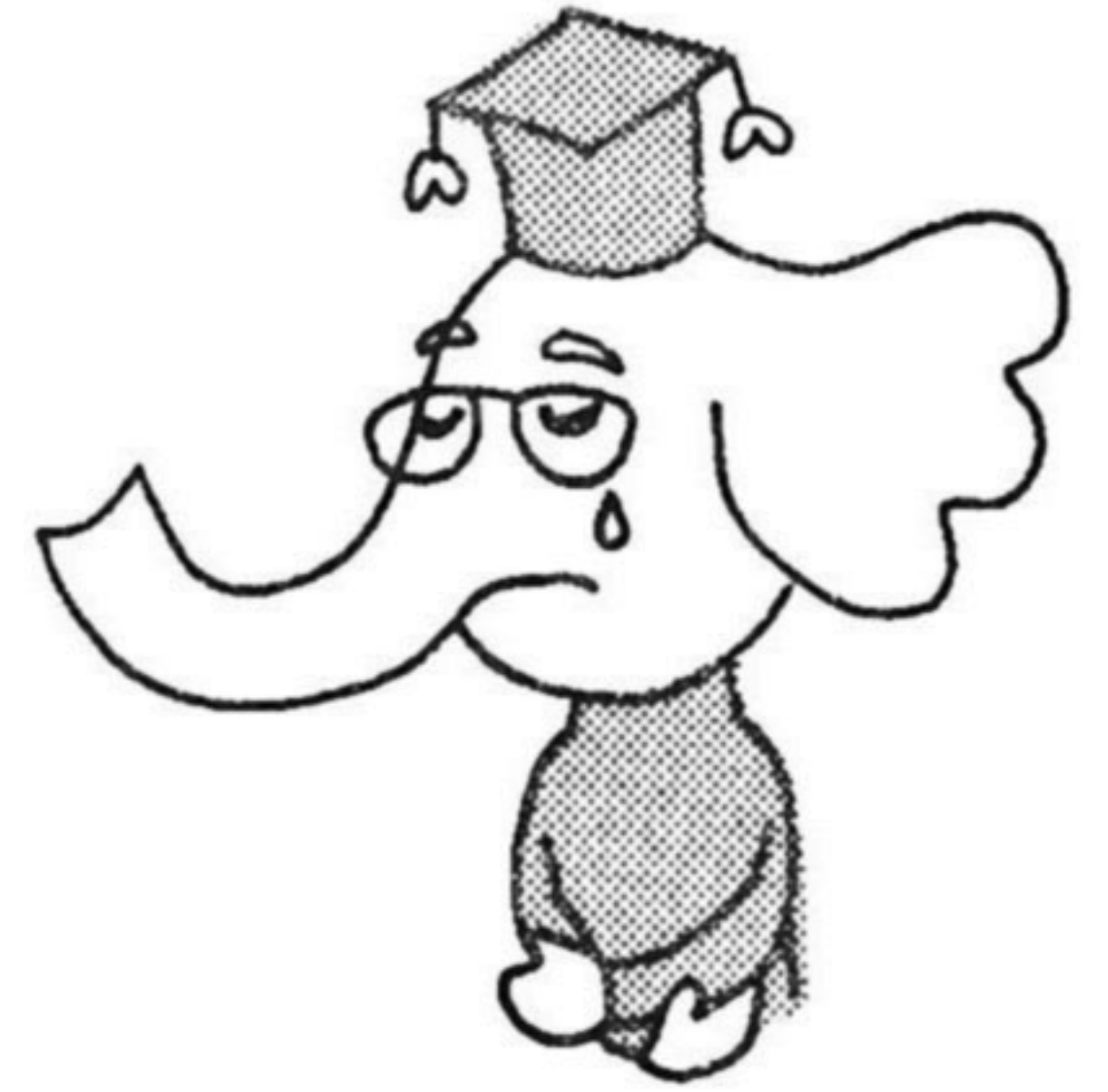
- 緊急を要する場合の選択はその度合いにより決められないこともあるかと思いますが、やっぱり必要なのはお金でした。どうしても必要な物を買うのに、お金がないのに情けなかった。
(女、53才、無職)
- お金を送るということは気持ちがないように思えてしまう。でも、物資ばかりでも、結局使用できず無駄になることも多い。それを考えると、お金の方がいいのかも。
(女、20才、学生)
- 被災地全体の対象が広いと物資は仕分けも配布も大変。お金のほうが効率が良い。
(男、43才、会社員)
- お金をどこに送れば一番有効に使われるのか、神戸の様な時きちんと、皆のお金が本当に困っている人にわたったのか疑問。
(女、63才、主婦)
- お金をどこに送るかによる。物資はまとまった数の新品を送ることの出来る企業などにまかせた方が、受け手が楽なのではないか。
(女、37才、会社員)

▶義援金取り扱いの苦労話 日本赤十字社ボランティア課長 畑 厚彦氏への取材より
今回の震災で寄せられた約千七百億円の義援金は、その用途を巡り、出した側の思いが十分生かされなかった感想が残る。被災一世帯にたったの二十数万円という現実が義援金の絶対的不足や公的援助の未整備をよそに、被災者の怒りに国民が同情する形となった。「もう日赤に送るのはやめよう」の声も聞かれるが、配分については日赤が決めているのではない。有識者が集まった配分委員会での協議によるもので、しかもかかる事務経費等は持ち出し。信頼失墜とのダブルパンチだが、今後は用途を「被災者」「ボランティア活動」「公共整備」などに細分化することや配布先を自治体以外にも設けることなどが検討されている。

◆送る前に考えたいこと

2. 現地が必要としている物を確かめてから送りましょう

とにかくありとあらゆる物が届けられた。送った方はよかれと思ったにせよ、その量や種類の多さに被災地はパニック状態になってしまった。送る前に必要とされている物を確かめることが大切だゾウ!!



◆アンケートより

- 必要とされる物が被災後の経過で異なるので、その都度確実に必要とされる物をおくることが必要。 (女、60才、主婦)
- 被災者の個別ニーズをどれだけ把握できるかが鍵。その情報を処理、加工して発信する仕組みを構築すること。 (男、34才、アルバイト)
- 私たちは農業者集団ですので、野菜類をたくさん送ったのですが、量的なことが良く分からず、ずいぶん無駄もあったようです。また、現地に直接行った際には、避難所で捨てられてゆくパンを持って帰り、それをお金に換えて、活動資金にしました。物資をコントロールすることはとても難しいことだと思います。 (男、38才、その他)
- 被災地の公共施設やボランティアセンターにねむっている救援物資を沢山見てきた。これは送る側つまり私たちのほうにも責任はたくさんある。 (男、28才、会社員)

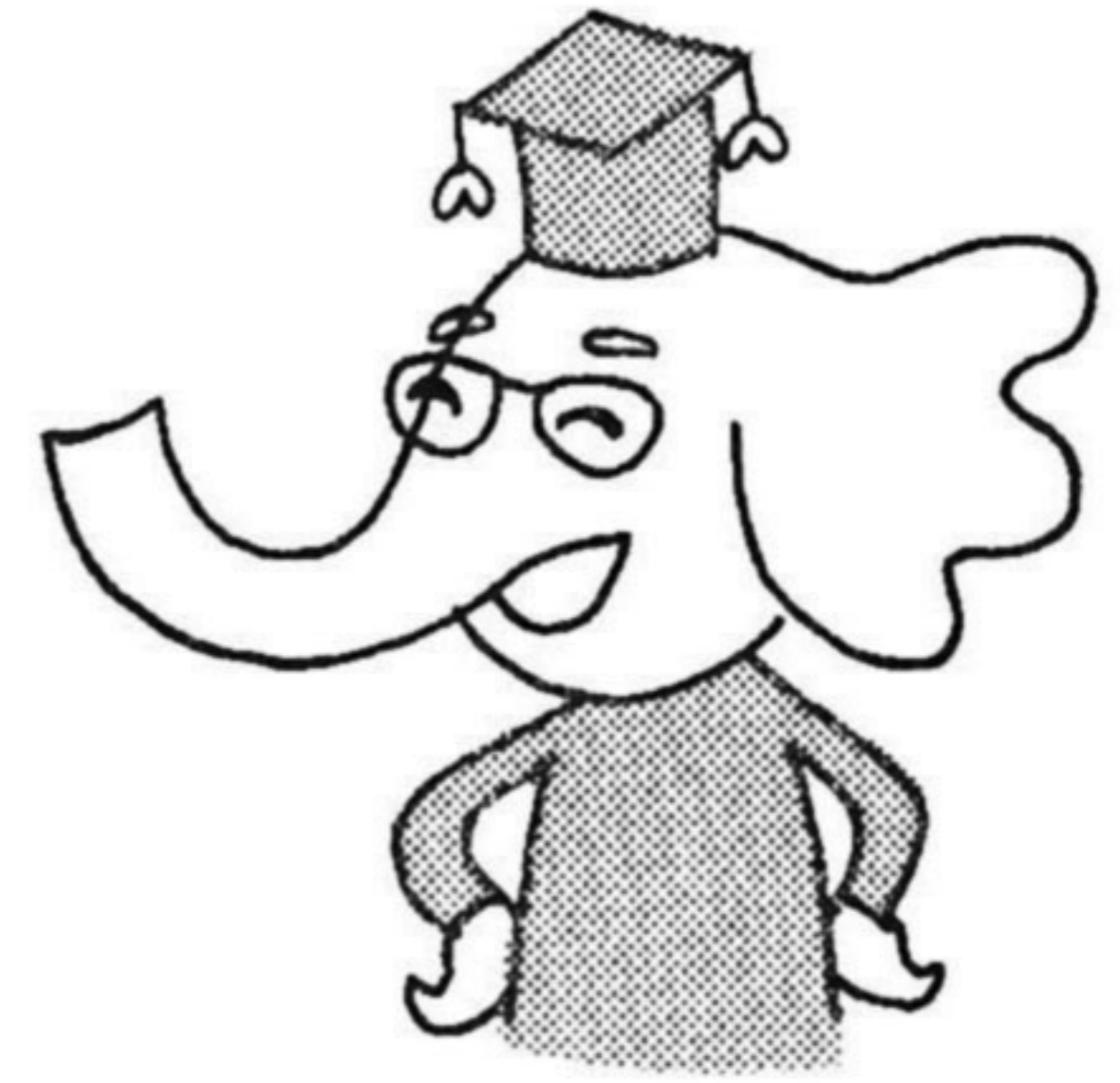
▶被災者に気を使わせることのないように 兵庫県社会福祉協議会ボランティアセンター 桑原英文

大規模災害時の救援物資は、物品ごとに集約し、適時に適所に送られることが求められます。そのためには、被災地から発信される情報を受け、スピーディーに対応する被災地外でのシステムティックな物資の調整が不可欠です。また、物資情報を待つ間に救援物資の申し出を物品ごとに整理し、必要数だけをバックヤードとなる体育館などに集約、梱包し、運輸関係の協力を得るなどして現地にピンポイントで送ることで、被災された方々の手元に届けるための配慮ができるでしょう。物資は、個人が個人に送る宅配便のようにはいきません。マスコミの情報発信にも問題があるでしょうが、尊い命を支え、衛生や安全、プライバシーに配慮された避難生活を送るための支援が、被災者に気を使わせることのないようにしたいものです。送る側の思いもわかりますが、喪服、水着、シミのついた下着やおにぎりが、救援物資の箱から出てきた時の戸惑いを考えてみて下さい。

◆送る前に考えたいこと

3. 地域や学校・職場で集め、数量をまとめましょう

個人の力は小さいけれど、皆が集まれば大きな力になるよね。個々がバラバラで送ったから混乱したのだけど、それを集め、整理してから送るようになれば、効率的だゾウ!! みんなで協力している一体感も生まれるしね!!



◆アンケートより

- まわりのみんなが出すので、必要とされているかどうかわからないが、何か出さないとまずいと思ってしまうのが難点。 (女、46才、主婦)
- 個人で送ろうとする方もいらっしゃると思います。というより、その前に地域や学校、職場でまとめられるネットワーク作りが先決だと思います。 (女、26才、その他)

▶多くを学んだ!

すてきにTsuruoka 橋本由美

震災の発生した1月17日の午後から、ミニコミ誌を発行している私の元へ、何本かの電話がかかって来た。「どうする?、何とかしないと…」「トラックを手配してくれたら炊き出しに行く」等々。ちょっと待ってヨ。交通もストップしているし、余震もあるようだから今は危険、と答えつつ、ずーっとテレビで様子を見ていた。何の策も浮かばず、思案にくれたまま深夜に見た岡山(?)からのみかんの映像。そうか、みかんでも助けになるんだとわかり、「救援物資を送ろう!」と決意した。翌朝、外国に衣類を送る活動をしていた友人に連絡した。そして、腐らない食品、後からでも役立つ米、報道されていた新品の衣類、寝具、亡くなった方のために生花など、物資を限定し、各マスコミに応援依頼した。場所は解りやすい市役所の駐車場。輸送はある運送会社が現地行きをOKしてくれ、1月20日から物資を受け付けた。市民の関心は高く、短い募集期間だったが、4トントラックが満杯になった。同時にカンパも募った。

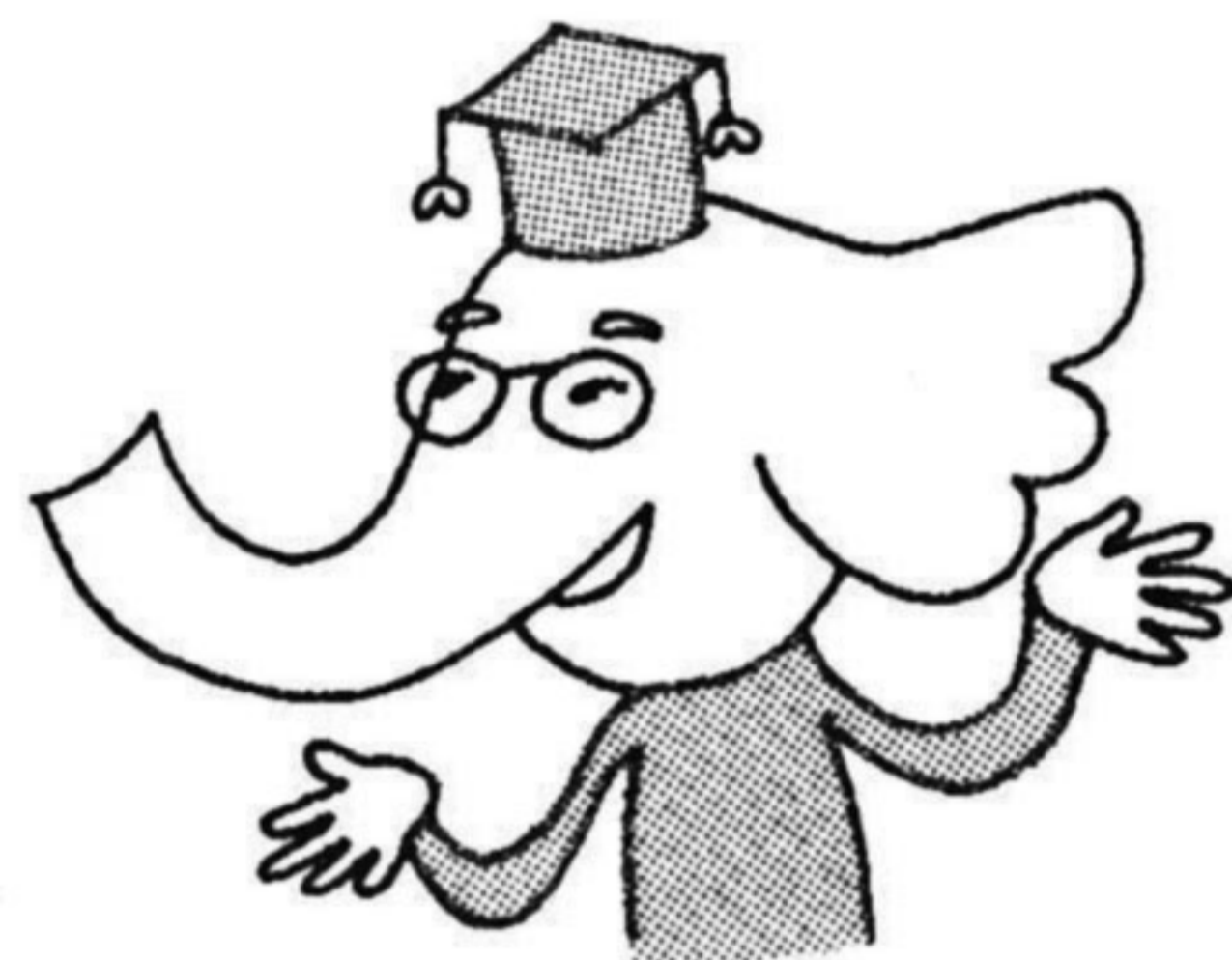
受付、仕分け、梱包、段ボールに中味を記入、送れないものは自分達が買う形で換金、そして絶対的に水は必要と、ホームセンターからポリタンク百個のカンパを受けた。その間、携わったボランティアは40~50人。本当に寒い日だったが、翌朝、1名のボランティアがトラックに同乗して出発。しかし、交通規制の果てに行きついたのは、郊外の運動場のようなところ。出発前に、届け先も必要な物資も何度も確認をして伺ったのに…。受ける側のことを含め、関わった私たちは多くを学んだ。そして、今も定期的に届くニュースレターから様々なことを学び続けている。

◆送る場合に考えたいこと

4. 段ボール単位で品物別につめましょう

5. 段ボールには品名・数量等を明記しましょう

個々に送られた段ボールの中身は実にさまざま。それを仕分けするために、どれだけの人が苦勞したことか……。送る側の少しの配慮で、時間と労力の無駄がずいぶん省け、必要とする人にもっと早く届くはずだゾウ!!



※衣料の場合はP18を参照して下さい

◆アンケートより

- 被災者の手元に届くまでの無駄を省くためには特に必要と思う。(男、23才、会社員)
- 品名等は大きく書く、できれば箱の上と横に書く。(男、23才、団体職員)
- 現地のボランティアが助かる。(男、19才、学生)
- 品名は詳しく。例えば年齢別、男女別が一目で分かるように。(女、63才、主婦)
- 重量とか注意事項(上下etc)も書いてあればよいと思う。(男、48才、会社員)

▶いざという時のために!

ハートネットふくしま 吉田公男

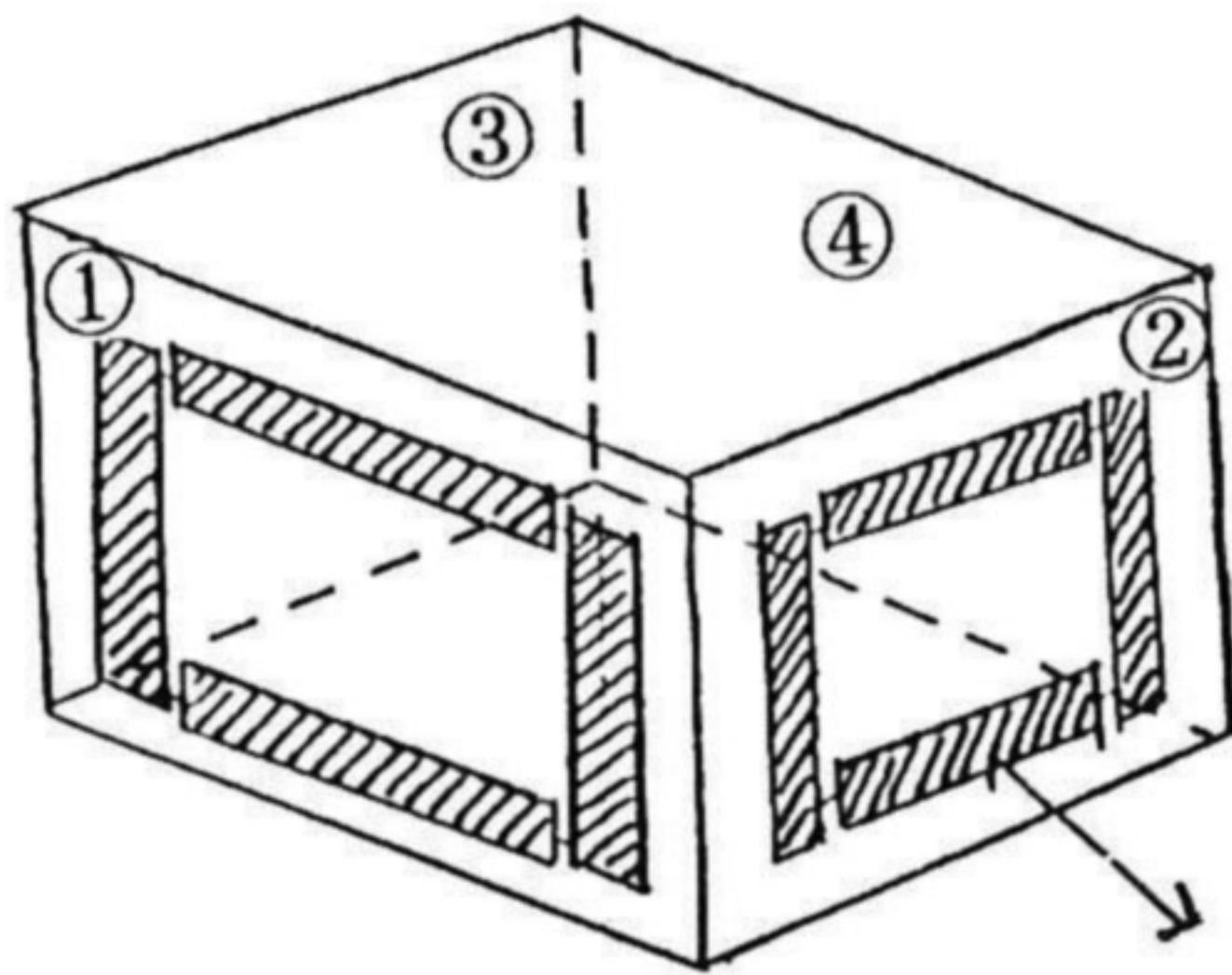
宅配便の仕分け風景を映像で見たことがあるでしょうか? 荷物の行き先をバーコードから読み取り、ベルトコンベアから自動的に行き先に流れていきます。ボランティア活動をすべて効率の立場から考えるのは正しくありませんが、多くの善意を確実に素早く被災者に届けるには、企業などのお手本を見習うことは大事なことです。同じ品物が同じ数ずつ、しかも同じ大きさの段ボールで仕分けしてあれば、その後の作業から無駄を省けます。また、一度仕分けした物資はそのまま物流させたいもの、段ボールの中の品名・数・サイズ等は見やすい場所に明記しましょう。それも、積み重ねた場合も考えて、側面にも書いておきたいですね。さらに、その表示方法が統一されていれば、現場で大量に物資を扱う側にとってはベストです。

これらの事は、災害時では容易にいかないものです。今の時期に行政・企業・ボランティアが広域で連携してルール作りを進めれば、いざという時、市民の救援物資が素早く被災者の手元まで届くようになるはずですよ。もう一歩話を進め、物資を送る地域側にも物資の集積基地があれば、なおうまくいくのでは…。

▶ 「ラベル」の貼り方

[表示位置] 必ず段ボールの側面4方向に貼付する。(上面に貼付しない)

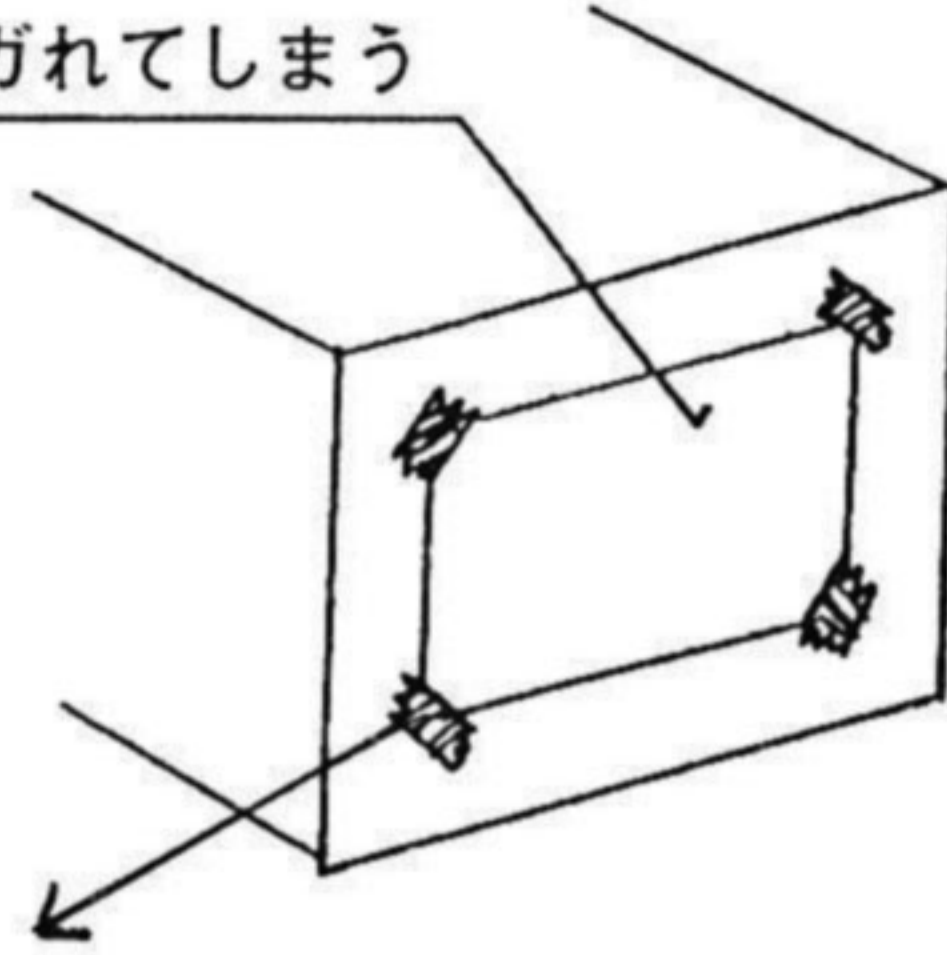
[貼付方法] ラベル4周囲をガムテープでとめること。



【良い例】

①～④面すべてに表示する

すぐハガれてしまう



【悪い例】

ガムテープを部分的にしか貼ってない
4面すべてに表示していない

資料提供：阪神・淡路大震災被災地の人々を応援する市民の会

▶ 物資を詰めた段ボール箱に貼る「ラベル」

① ○○○○○○ 緊急救援物資

② No.		③ 重量	kg
④ 品名		⑤ 大きさ	数量

⑥ 発送人)

- ① 災害の名称を入れる。
(ex. 「阪神・淡路大震災」)
- ② 何箱かまとめて送るときには通し番号を入れる。
- ③ 海外で起きた災害に対して物資を送る場合は、税関の関係で重量を知らしておく必要がある。国内で起きた場合でも、記入しておくとか何かと便利。
- ④ 品名は、なるべく大きく誰でも読めるように!!
- ⑤ 大きさ、数量は、それぞれ分けて書くとわかりやすい。
- ⑥ 発送人は、団体単位で送る場合に記入しておくとか受け取る側がわかりやすい。



別に段ボールでなくともまとまるものはあると思う。
毛布やふとんまで段ボールに入れるのか?
(女、28才、公務員)

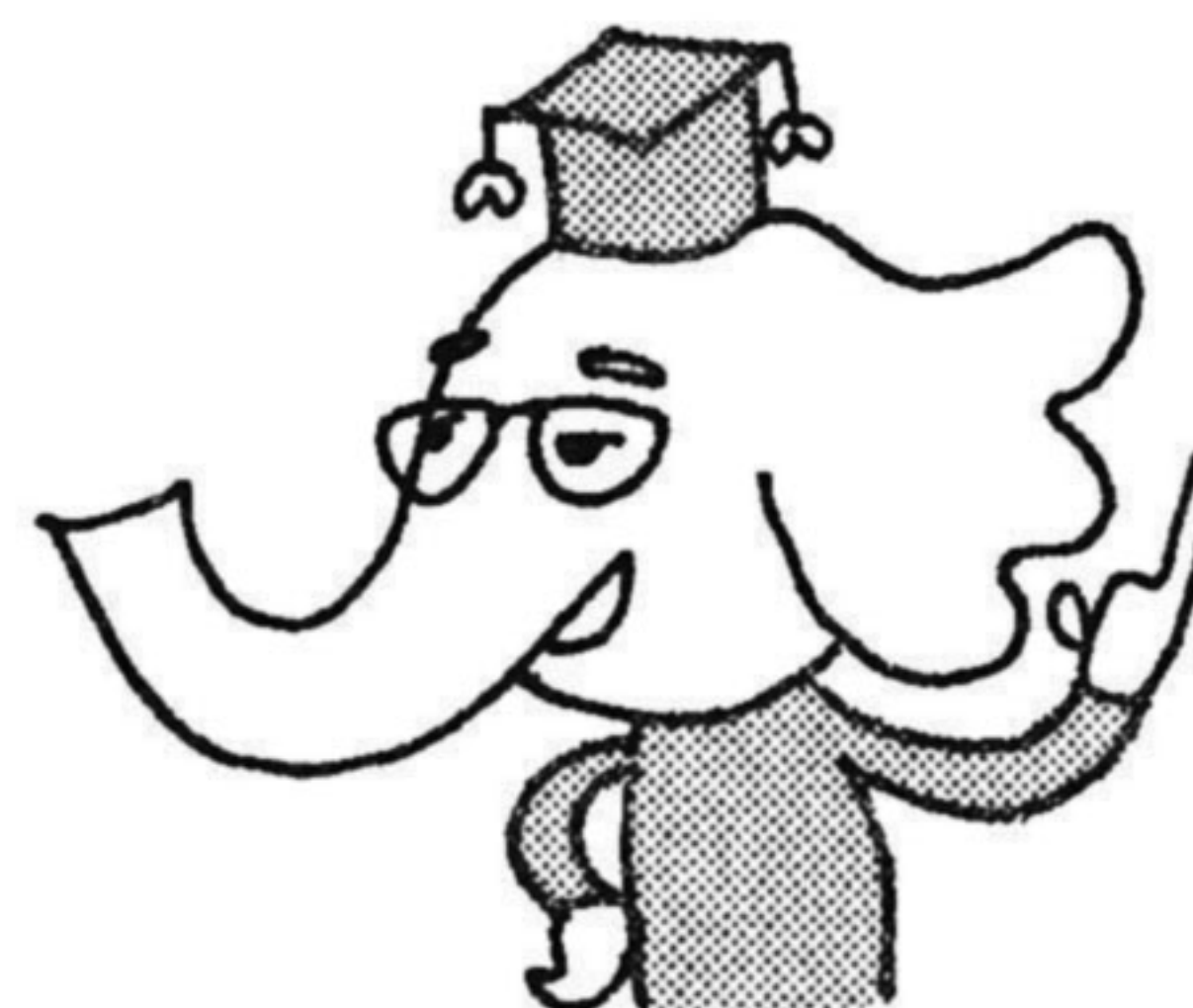
確かにそうね。
……目安としては
1. 一人で持てる大きさ・重さに
2. 汚れないように
3. 水ぬれ対策
こんなことに気をつけながら臨機応変に!!



◆ 送る場合に考えたいこと

6. まとめて送る場合は全体のリストをつけましょう

送る側みんながリストを作成して、受け取る側がそれらを日々まとめれば、常に在庫の全体量が把握でき、スムーズな物流につながる。企業で用いられているこのシステムは、大いに活用すべきだゾウ!!



〇〇 救援物資リスト

No.	品名	数量	重量	備考 (段ボールの大きさなど)
			kg	
			kg	
			kg	
			kg	



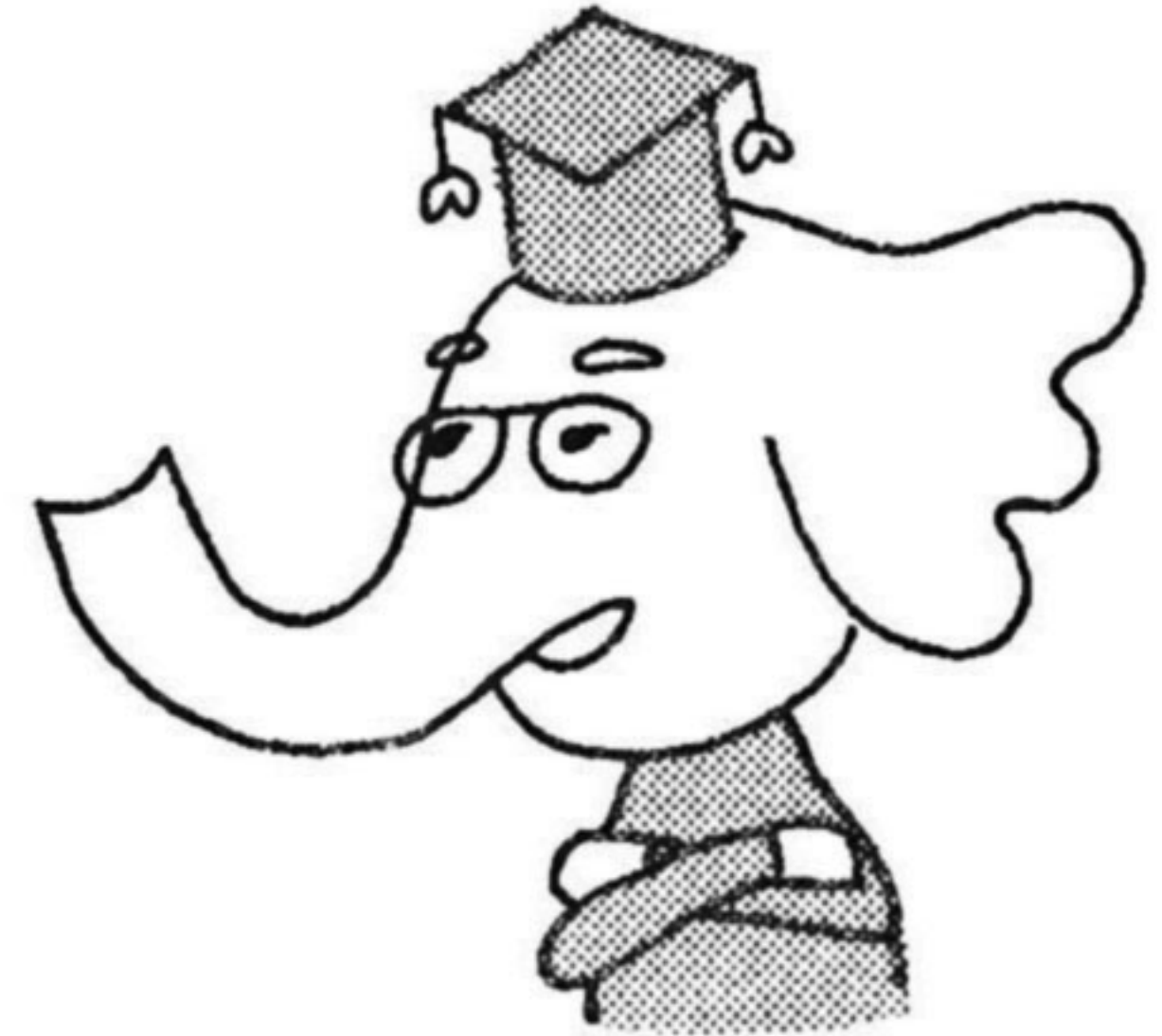
〇 被災地支援グッズいろいろ 〇

品名	団体名	連絡先☎	所在地
レースのコースター、花瓶敷き	あ・ひるの会	078-821-7817	神戸市灘区
まけないぞう(手拭きタオル)	「仮設」支援NGO連絡会	078-578-6921	神戸市長田区
ステッチフラワー (布で作った造花)	がんばろう!! 神戸	078-595-2800	神戸市北区
さをり織りの品物など	シティライト	078-579-1470	神戸市兵庫区
手作りハンガー、ビーズ小物など	西宮・地域助け合いネットワーク	0798-26-2855	兵庫県西宮市
お箸ふくさ(箸を持ち運ぶための包み)	被災者支えあいの会	078-857-8471	神戸市東灘区
ガッツくんTシャツなど	(株)百番目のTシャツ	078-576-9671	神戸市兵庫区
しじみのねつけ、お手玉など	プロジェクト結ぶ	0798-64-5829	兵庫県西宮市
パッチワーク、和紙細工小物など	プロジェクト1-2	078-512-1905	神戸市兵庫区
白鳥(ビーズ玉をつなげて作った置物)	ゆいまーる神戸	078-791-4829	神戸市須磨区

◆送る場合に考えたいこと

7. まとめて送る場合は unnecessary な物を事前に処分しましょう

現地が発信する必要な物であっても、引き取り手のないような、例えば古すぎるもの、こわれているようなものなどは事前にチェックし、処分することが必要だゾウ!!



▶勝手に来る物資に…被災地の困惑と浪費 日本災害救援ボランティアネットワーク理事長 伊永 勉
阪神大震災ではNVN（西宮ボランティアネットワーク）が救援物資を集積・仕分け・配布するためだけに、実に2万7千人を越すボランティアの動員をしなければならなかった。その実態から「救援物資は個人の判断で送らないでほしい」という結論をアピールしたい。西宮市では、10tトラック894台、郵パック23万箱という物資が全国から集まった。これらの物資を仕分けし、避難所や在宅被災者に配布し、20日間にわたって、7ヶ所の体育館でフリーマーケットとして開放したのだが、物資を仕分けすると、70%が衣類であり、その55%は被災者が全く受け取ってもらえない古着であった。特に「毛布」と書かれた箱の中に、おにぎりや水、時には現金も入っており、箱を開けた時はおにぎりが腐っていて、毛布も使えなくなっている事が頻繁にあった。さらに unnecessary な物資を焼却処理するために2千3百万円もの費用がかかったことも知ってほしい。今後の災害に救援物資がどうあるべきかは重要な問題だが、もし送りたいと思った場合は、少なくとも箱の中身と表示が一緒であることと、直ちに被災者の手に届かないことを知っていてほしい。被災地が一番欲しいのは「現金」であり、被災者のための「義援金」とボランティアのための「支援金」の2種類が必要なこともアピールしたい。



不必要かどうかは、むこうとこちらとでは判断が違うかもしれない。
(女、24才、アルバイト)

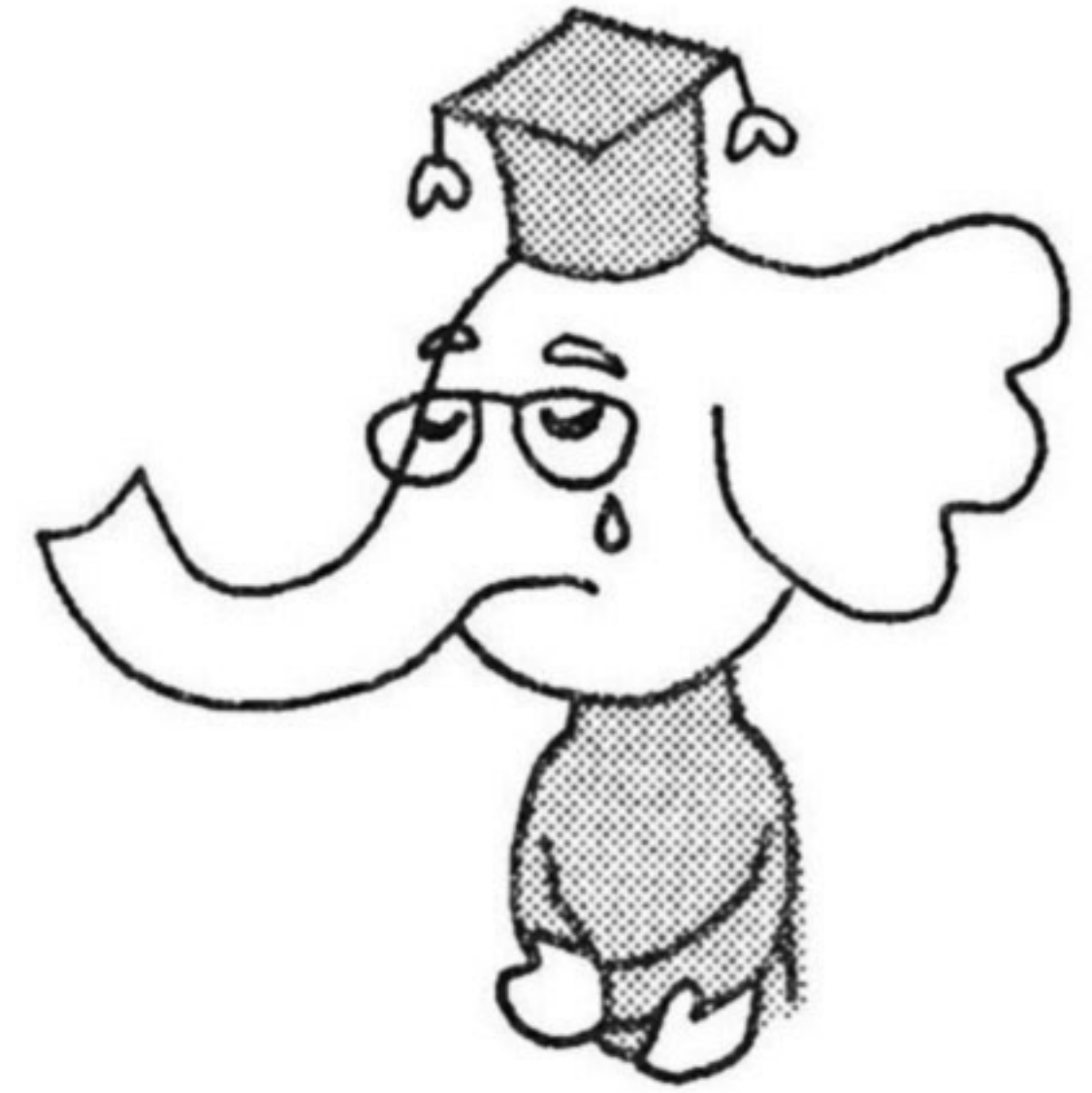
こちらが判断すること自体がおかしいか？ あくまでも、被災地のニーズにあった物を送るべきよ。



◆送る場合に考えたいこと

8. 下着類は新品を送りましょう

こういう提言をしなければならないのが、本当に残念だゾウ!! 送る行為そのものは否定できないけど、いくら洗ってあっても、誰が使ったのかわからない下着をつけるのはとってもイヤだよね!! もう少し相手の立場になって考えよう。



『実録：開けてびっくり!!』



ふきんや雑巾になるので決めつける必要がない。(女、59才、その他)

ではそれを誰が作るのカイ? 物を大切にすることで賛成できるけど、そう思ったらふきんや雑巾にしてから送ってね!!



◆送る場合に考えたいこと

9. 電池等、交換の必要な物は予備もつけましょう






例えば、ラジオを送る場合、予備電池のことまではなかなか気がまわらない。でもよく考えてみれば必要なことなんだゾウ!! こうい
う少しの配慮ができればいいね。



◆アンケートより

- 缶切りの必要な缶詰には缶切りもつけましょう。でも、一番いいのは、ワンタッチで開けられる缶詰ですね。 (女、40才、会社員)
- 「カートリッジが必要な物についても予備をつける」とした方が良いと思います。例えば掃除機の紙パックとかFAXの用紙とか。 (女、24才、その他)
- 電池に新旧取り混ぜて使用すると、液モレの危険があり、特にアルカリ電池の液がもれるとひどいやけどがおこるので…。新品のパック売り電池だけを送るべき。 (男、28才、公務員)

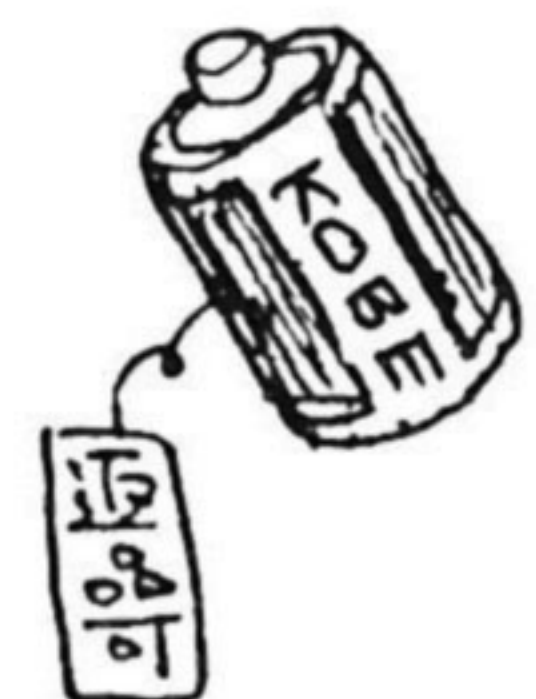
◆電池の寿命

<p>懐中電灯</p>  <p>単1 × 2 2時間</p>	<p>ラジオ (携帯用)</p>  <p>マンガン 単4 × 2</p>	<p>イヤホン</p>  <p>24時間</p>
<p>単1 × 4 7~8時間</p>	<p>ポータブルラジオ</p>  <p>マンガン 単3 × 2</p>	<p>スピーカー</p>  <p>14時間</p>
		<p>45時間</p>

※時間はおよそ、ラジオはAMの場合

一口メモ

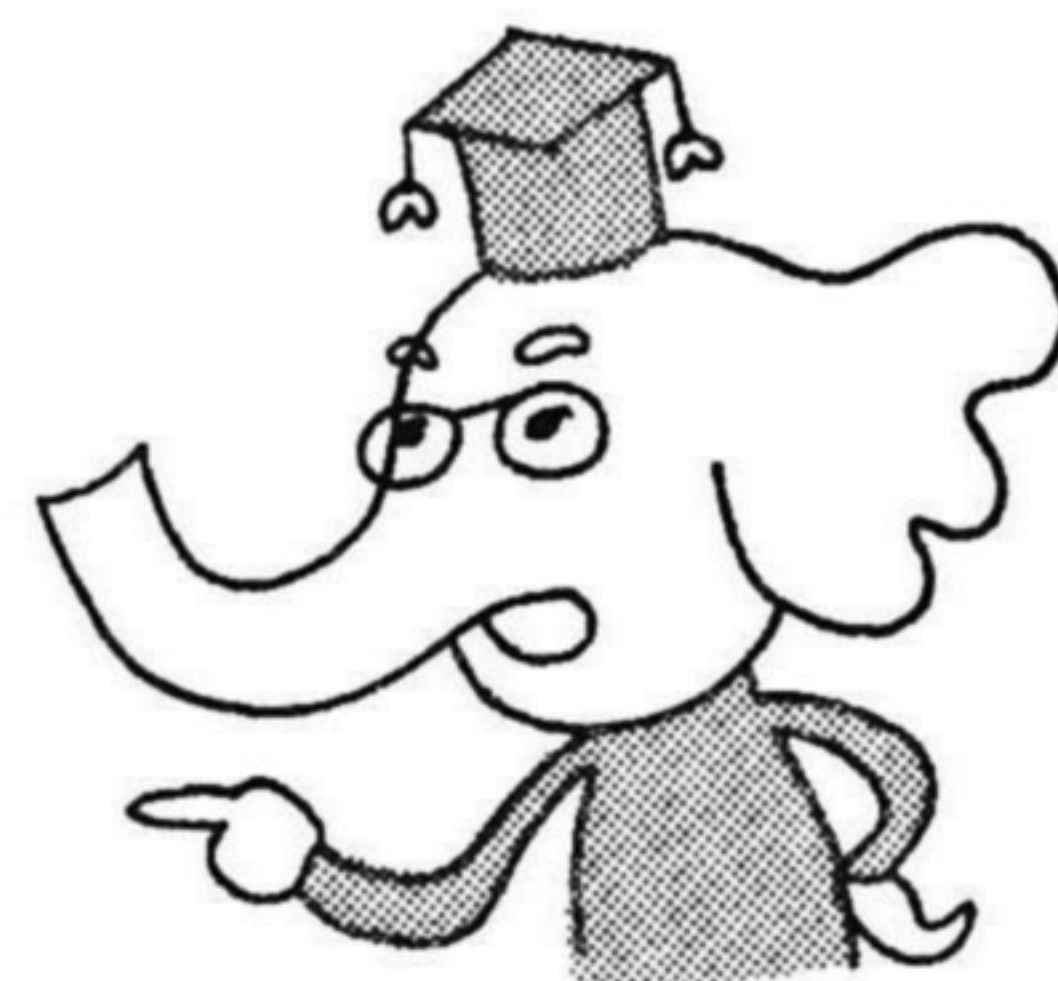
被災地では、使い終わった電池の処理にとっても困ったんです。普通のゴミではほかせへんし…。でも「使い終わったものは送り返して下さい」って書かれたものがあった、とても配慮を感じました。



◆送る場合に考えたいこと

10. 送った物資の使われ方は現場にまかせましょう

自分が送った物資の使われ方はとても気になるところ。しかし、混乱期は特に送ってくれた方々一人ひとりにどう使われたかを説明することは難しいゾウ!! ……寄贈した以上、現場を信頼して暖かく見守りましょう!!



◆アンケートより

- 現場での混乱を目の当たりにしたことがあって、とても賛同しています。
(女、38才、自営業)
- 現地で必要の無いものを送り返されても受け取る覚悟をすべきです。送料ももちろん送った側の負担で責任を持つべきです。
(女、43才、その他)

▶物資を扱う立場から

リリーブの会 小寺栄子

「送った物資の利用状況を報告してほしい」こんなお電話をときにいただく。想いが大きいほど気にされるのは当然だ。しかし一方、物資を扱う現場には3年目の今もそのゆとりはない。大卒をお答えすることで勘弁いただいている。事務処理に伴う多大な時間を現場の活動にあてたいからだ。企業のように書類でつなぐシステムを創れないのは弱点である。しかし、想いの確かさでつなげた超特急ネットワークだからこそ、あの緊急時、大量の物と人を動かしたようにも思う。願わくば、物資をまかせてよい団体かどうか、書類で不足の分、別のセンサーで判断いただければと思う。

一口メモ

▶救援物資の受け入れ体制 —静岡県の場合— 静岡県ボランティア協会 清水慈子
県担当者の話をまとめると、以下のようになります。……

静岡県は9つの行政区に分かれている。救援物資はそれぞれの行政区の集積センターに集められ、そこから各市町村へ配られていくが、誰がどのように配送するか等はまだ決まっていない。救援物資は、県が契約を結んでいる企業に要請し、まとまった数量が送られてくることになっている。全国からの救援物資については、本当に必要な物だけを送ってもらえるよう、市町村から行政センター経由で上がってきた情報を県がとりまとめ、他の都道府県に要請していく。その間に生じる時差をどう埋めるかは検討しなければならない。基本的には救援物資よりお金での支援を希望する。